

2010年2月

おめでとう！合格！

今回合格記を飾ってくれるのは、山田一郎君(仮名)です。
合格校偏差値58(四谷大塚80)

概要

2009年7月より、通算学習回数8回。
算数偏差値63から時を追って下降(予測付かず)

その他の教科

国語偏差値70前後(安定)
理社50~60(乱高下)
(偏差値は6年生合不合予備、合不合の平均から)



私は、塾主宰者としての私見を述べた、もうひとつの学習ブログを持っています。
参考の為に、さまざまなお母様のブログも拝見しています。
そんなある日、母花子さん(仮名)のブログに行き着いたのが、昨年6月でした。

内容は受験の苦悩を綴ったもので、楽しいものではありません。

4,5年生と大手進学塾に在籍し、良い成績を修めていたにもかかわらず、「新しく担当になった算数の先生が怖い」という理由で6年生で転塾。
その後徐々に下がる成績。つかめない原因。
このような規模の小さい塾へ残っても大丈夫なのかという不安。
一番気になったのが、「だるい、気持ちが悪い、眠い」と絶えず体調不良を訴える一郎君のことでした。

私が体調不良についての対策コメントを入れたのをきっかけに、母花子さんとのブログ上での交流が始まりました。

こうしたご縁で、ほんの少しの期間、わずか8回ですが共に学習することになりました。
一郎君は、発揮できないだけで、もともとの実力はあったので、本当のところ私に教えることなど、そんなにありませんでした。

問題点は、どうやら勉強のことではなさそうです。

少しばかり頭のほうが先に大人になってしまった彼は、人一倍の共感性で「母の不安」を吸い取ってしまっています。

本来頼るべき存在の母親がおろおろしているため、神経の細い一郎君の不安の行く先は、自分の身体へと向かっていったのです。

どうしたらよいのだろう。

どういう風に2時間を過ごしたらよいのか、見当もつきませんでした。

「大問1、2だけ完璧にやれば、後は手をつけなくてよし」とか「一日校は絶対に受かるところにせよ」とか、折に触れて言った気がします。

さいごの極めつけは「落ちたらどうなるって言うの？命まで取られるわけでない」
「中学に入ったらここでバイトしなさい。私に国語教えなさい」などなど、本当にいろいろなことを口走りました。



今回の功労賞を、転塾先の小さな塾の若い室長先生に贈ります。
山田母子の陰日なたになり、よく支えてくださいました。

彼女のブログを毎日眺めていると、室長にぶつぶつ文句を言いながらも、安心して頼っているのがとても伝わってきました。

結局一日校、二日校と立て続けに合格。
最後に腹を括って弾けた一郎君に乾杯！

くす玉のつもりです→



以下は一郎君との数回の学習記録です。新しい順になっています。1回目は最下段です。

8回目の学習 割合

志望校の過去問が振るわずに、お母様が困り抜いています。

どれどれ…どんな具合なのでしょう。

「ここからここまでやってみて」と問題を差し出しました。

静か…どうした??

あれっ、寝ちゃったの?

そうではありませんでした。

彼は静かに考えていました。

そして結果は、90%正解でした。

このケースが実は一番困ります。

中学受験の選抜制度に一番向いていない子と言ってよいでしょう。

学力そのものは高いので、「自分ペースでいいよ」と言えば、四科の中で苦手とはいえ、60(四谷)程の偏差値までいけると思います。

対応策をとろうにも、分かっていないわけではないため、基礎に戻って速度をつける訓練も、この時期では有効性が薄いのです。

一問当りの限度6分程度(大問)に、倍かかりますが、「受験は短い時間で勝負が決まるから、速度を上げるように」言ったとたん、固まりました。脳の回転も止まったかのように見えます。

他人に踏み込めない彼のペースが、既にきっちり出来上がっています。

ちなみに彼は小さい時分から読書大好きで、思考力を駆使した、大人も驚くような文章を書くことができ、国語に関しては、難度が上がるほど大差をつけて圧勝します。

課題は算数の「問題を解く速度」です。

7回目の学習 立体の切断実習

今日から家庭塾は冬期講習に入ります。

柴子は一郎君(仮名)に可愛がってもらって、うっとりして側を離れようとしません。



今日一郎君は4時間授業なので、疲れを緩和したい気持ちをこめて、初めてのコタツ授業に挑戦します。

大丈夫かな…
う〜ん…寝てしまうかも。
ちょっと不安がよぎる…

しかし結論は、「寝ませんでした」。
やるべきことが多すぎて、ごろんとなる暇がありませんでした。
さすが6年生。
今日は速さと比を繰り返し30問やったあと、
立体切断実習をしたので、大忙しでした。



やっぱりコタツは(私には)ダメですね。
写っていないこちら側が、プリント類とテキストの
海になっています。
しかしまた二階に運ぶのは面倒です。
明日もこのままでおこなってみます。

うわあ——、あしたこそきっと大変なことに…

2回目の学習 重複カードがある場合の数

彼はまだN進法を学習していないので、今日はそこがリクエスト单元です。

問題を30問コピーしておきました。

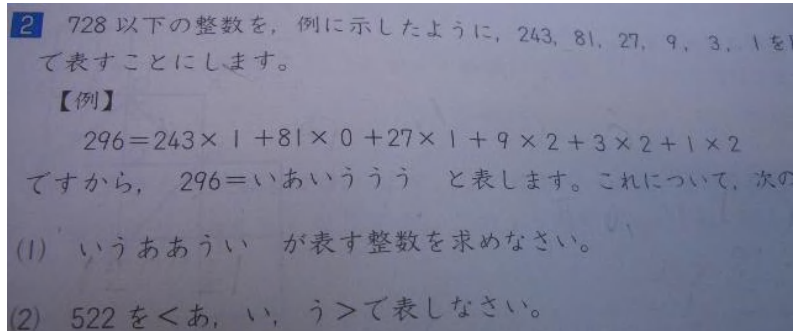
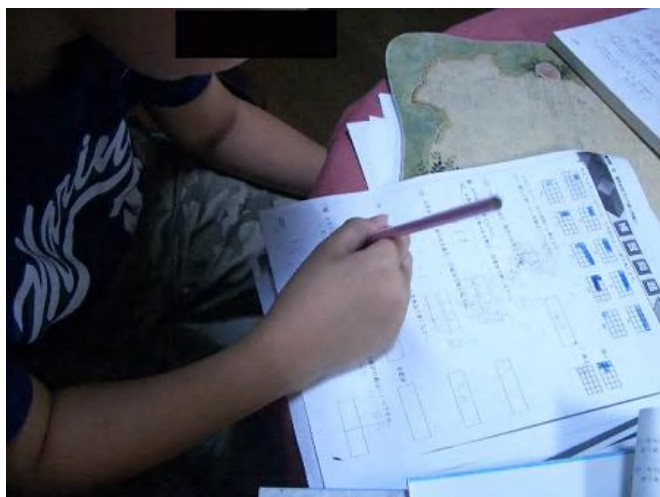
現在は、N進法は受験問題の主流から外れていますが、下のようなものはN進法としてではなく、[約束記号]の問題として出そうな気がします。

以下は四谷シリーズ5年生下巻P166の問題を写真に撮ったものです。

彼は30問の課題の8割がた、全部一人でやってしまいました。

たまに「こうやると、間違えにくいわよ」というコツを横から差し挟むだけ。

あ～あ、手持ち無沙汰……なんか聞いてよ。



しかし合間に、この問題↓が横にあったので、試しに「ねえ、こういうのどうやっている？この解説みたいに、手書きでやるの？」と聞くと「はい、そうです」という答えが返ってきます。

例題4 P160

{0,0,1,2,3}のカードがあります。この5枚のカードを使って3けたの整数を作ります。これについて、次の問いに答えなさい。

- (1)全部で何通りの整数ができますか。
- (2)(3)は省略

「同じカードがあっても、計算で出来るのよ。手書きでは、重複や書き漏らしがあるかもしれないでしょ、ウヒヒ」と、にわかに元気付く私。やっと出番が来ました。眠気がいっぺんに覚めました。

120分のうちの残り40分は、速さの差集め算です。これは算数大得意の人も案外苦手な分野です。

これも、絶対にこれで正解できる、というコツを教えて9問終わりました。

今度は9月の連休に、「重複カードの場合の数」、「平面図形」をやろうね。

2月の入試まで、なんとかあと5回は共に学習したいところです。

1回目の学習 ニュートン算

初めてにも関わらず、お母様は車で時間ぴったりにお越しになり、いったいどのようになされたのかとても驚きました。

お子様が苦手単元をもてあましているので、いつもブログを見てくださっているお母様が、思い切ってお申し込みくださいました。



仕事柄、初対面のお子様でもこちらは大丈夫ですが、相手はそういう訳には行かず、はじめの20分間はコチコチに固まっていました。

しかし、子供というのはすごい。適応力があるので、徐々に馴染みました。

学習は一回2時間ですから、この時間内に「分かった」から、出来れば「自信が付いて得意単元に転じた」まで行う必要があります。

彼は基本問題は十分にできるのですが、既に並んでいる人数、たまっている水などが分かっていない問題が苦手のようなのでした。

そこを□や①として文意なりの式を立て、逆算する方法で教えました。その後は線分図で求めます。一行問題の基礎問題を6問、シリーズの例題4問、基本3問、練習2問の計15問をやりました。

「例題」の自己解説(先生役)を通して、彼の揺らいでいる点が浮き上がります。するとまたそこを途中から私が引き受けて、解説の続きを行います。

この一連の作業を何度も繰り返すと、自分が同じところで詰まってしまうことに気がきました。そこを意識して問題に取り組むうちに、分かってきたようです。

最後は他人(私)にとっても分かるように説明できました。そうならば一人前です。

その夜、「息子はこの單元には自信が付いたといっています」とのメールを頂き、ホッとしました。6年生は塾の夏期講習でかなり忙しく、次回は約一カ月後のお越しとなります。